

A. どちらも普通！

共働き世帯が増え、女性の社会進出が進む今、性別で役割を決めるのではなく「働きたい」「家庭に入りたい」「仕事も家事・育児もしたい」などの思いをみんながかなえられる社会をつくるのが大切です。



家庭で、職場でキラリと輝く

子どもと一緒にパンづくり 食の楽しさ伝えたい

しろやま ともかず
白山 登茂和さん (花園在住)

プロフィール

1978年生まれ。金沢、京都、フランスで修行をした後、2007年に独立。現在は近鉄河内花園駅前地元野菜を中心としたレストランのオーナーシェフを務めながら、イコーラムで開催される男性向け料理講座の講師としても活躍中。6歳と3歳の男児のお父さん。

一日のタイムスケジュール

7:00	起床
8:00	出勤
9:00	保育園へ子どもを送る パン仕込み・野菜仕入れなど
10:00	
11:00	
12:00	昼営業(11時半~15時)
13:00	
14:00	
15:00	夜の仕込み
16:00	保育園へ子どものお迎え (16時半)
17:00	
18:00	
19:00	夜営業(18時~)
20:00	
21:00	
22:00	
23:00	店の掃除
0:00	就寝



料理の仕込みがあるので掃除や洗濯までは手が回りませんが、家事も気づいたことはやるようにしています。子どもたちはときどき店に降りてきます。私がパンをこねたりパスタの麺を打ったり、料理を作る一連の流れを見せられることがありがたいなと思っています。

休日は農家さんの畑に子どもを連れて行って、野菜の収穫や田植えの体験もさせています。素材の味や食材の成長過程を経験させることが、食育のきっかけになればいいですね。

フルタイム勤務がきっかけ 笑顔あふれる家庭に

にしだ いくみ
西田 委久美さん (中新開在住)

プロフィール

6年前に結婚。大阪市内の人材派遣会社で派遣スタッフのフォローや派遣先企業との折衝、就職支援などに従事。忙しい毎日と並行して、平成24年に立ち上げた「親子のホットスペースひまわり」で代表を務める。高校1年生と5歳の女儿のお母さん。



一日のタイムスケジュール

6:00	起床 (出勤準備・夕食準備)
7:00	
8:00	通勤
9:00	
10:00	
11:00	
12:00	
13:00	勤務
14:00	
15:00	
16:00	
17:00	
18:00	通勤
19:00	帰宅
20:00	夕食
21:00	入浴
22:00	子ども就寝
23:00	就寝



結婚当初は、妻として母として「～しなければならぬ」という思いが強く、しんどい思いをしたこともありましたが、しかし「人は人。私は私のできるようにやればよい」と考え方を切り替えたとき、気持ちが楽になりました。

家族の助けもあって、家事を分担してもらいながら働けるようになってからはお互いを思いやる気持ちが芽生え、みんなが笑顔でいられる良い空気になったと感じます。

家事・育児と仕事を両立するためには、できることはキッチリと、できないことは家族に助けをもらう、その線引きをしておくことが大切だと思います。

パートナーに認められる人が「イクメン」

わだ のりあき
和田 憲明さん
(NPO法人ファザーリング・ジャパン関西代表)

【プロフィール】

1974年生まれ。長女の誕生を機に主夫となり、主夫業のかたわら保育士資格を取得。NPO法人ファザーリング・ジャパン関西の代表理事として「笑ろてるパパ」を増やす活動にも取り組む。9歳と5歳の女儿のお父さん。



— どうして主夫になられたのですか —

看護師の妻と、テレビ業界で働いていた私。そんなわが家に長女が生まれ「どうやって育てていくか」と相談したとき、妻は「私は自分の仕事を続けたい」と自分の意志を言ってくれました。

私自身は、自分の働き方に疑問を感じ始めていた時期だったこともあり「仕事を辞めて主夫になればいいのかも」という可能性がひらめいたんです。最初は妻もびっくりしていましたが、妻の育児休業が明けた2004年春に主夫に“転職”しました。

— 主夫になって気づいたことは —

「こんなにしんどいものか」ということ。話し相手がない孤独感と24時間続く家事と育児の連続に、1週間でヘトヘトになりました。

長女は今年で4年生になりましたが、わが家が他の家と違うことはあまり気にしていません。いろいろな家庭、いろいろなパターンを見ることは長女が大人になった時の選択の幅に関わってくる。「家事・育児のあり方に正解はない」ということは感じ取ってくれています。



— 「イクメン」とはどのような人のことですか —

イクメンという言葉が流行したとき、男性による子育ての呼びかけとして、わかりやすいキーワードだと感じました。同時に、「『イクメン』とは自称するものではない」とも思っていました。周り、特にパートナーから「ウチの夫は家族を大切にしている」と認められているこそイクメンと呼びたいです。

男性が家事や育児の一部を分担することはだんだんと「当たり前」になってきていますが、育児の最終的な責任はまだ母親にかかっていると感じます。育児の責任は母親・父親が分かち合うものだというのが大前提になったら、「イクメン」という言葉はなくなるはず。今の時代には有効なキーワードですが、そのうち使う人がいなくなると思います。

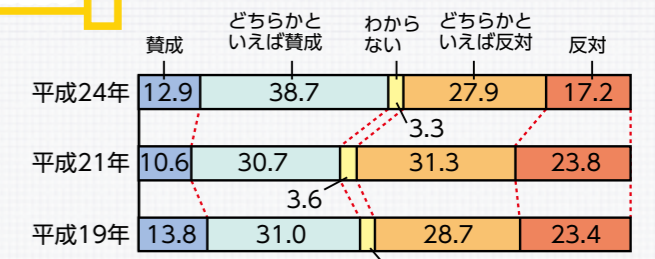
— イクメンが増えると社会はどう変わるのでしょうか —

ファザーリング・ジャパンの小崎恭弘副代表理事は「子育ては2人ですればしんどさ半分、楽しさ倍増」と言っています。お父さんが家庭により関わることで、子育てのしんどさは半分、楽しさは倍になる。この事実が地域社会に浸透し、いろいろな家族のあり方が認められ、より子育てがしやすい寛容な社会になることを望みます。

まだまだ根強い性別役割分担意識

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という質問に対し、「賛成」と答えた人（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）の割合が51.6%となりました。平成4年以降、減りつつあった「賛成」が増加に転じた今回の結果からも、社会の性別役割分担意識の根強さを読み取ることができます。

Q. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について



データ：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

「イクメン」だけじゃない！ もっと輝く男たち

最近増えているイクメン。でも、イクメン以外にも輝く男性はたくさんいます。あなたはどれをめざす？

カジダン

料理やお掃除など家事を
楽しみ、積極的に取
り組む男性。



ケアメン

親や妻など家族の介護
を担う男性。



イキメン

地域活動に積極的に参
画し、地域に貢献し
ようとする男性。



イクジイ

両親をサポートするた
めに子育てに積極的にか
かわる高齢の男性。

